奥州仙臺藩

巻之拾大尾

十

へ13
4060
9

奥州仕置萩

巻之十

一 一行当家人衆并ニ射手之事

一 一行陪従奉行石川籏本事

一 一行人数荷駄并ニ諸道具運送之儀本

附 伊達家中之者共先

49-2703

一 但遠島ニ処シ妻妾ヲ随ハシムル事

一 流罪ニ処シ妻妾ヲ随ハシムル事

一 流罪ニ処シ妻妾ヲ随ハシメサル事

一 流罪ニ処シ闔門ノ事

一 流罪ニ処シ財産ヲ没収スル事

一 流罪ニ処シ亦流罪ニ処スル者ノ妻子ヲ随ハシメサル事

一 流罪ニ処シ亦流罪ニ処スル者ノ妻子ヲ随ハシム

一 流罪ニ処シ亦流罪ニ処スル者ノ妻子ヲ随ハシメサル事

一 流罪ニ処シ亦流罪ニ処スル者ノ闔門ノ事

一 流罪ニ処シ亦流罪ニ処スル者ノ財産ヲ没収スル事

門へ 13
號 4060
卷 9

帝國圖書館

奥州仙臺萩巻之十

附山集 菅甲斐著

大崎兵部少輔義隆入集人

をうへでくれはて着奥へ入集人
より使を京へ上る半切方
めるよし其後高

若くしたまふ小安殿は
命を捨んと
其のおくつぎ手次をこうこう
たまひて家の跡をとりたちまち
めつがをよばべしこれ父の遺孫
情したまふの手次
をあそばしけがし死をする
ちうちうこう義をのこりて

村次之情赤
令濟法拙存
よ今ゝゞくよ
繩釵右遣
こ子僧
素名之
ゞくゝ連
いり我

表着縮くよ
ゝるべく
それ
居ま
家人

附

奥州一ノ関領主　伊達家永の浦家格

右名跡相続流罪となり古仏の如
為忌こうつるものなり光遠ら船家
格筆頭たる方なり家中大著
大院さま御こしらへ遊ばされ候
通りの御せきそこ
田村預渡るハ被家ちうき親族
るまでのうち家老
守之助御用
討我意をもつ
家老ら

連をたてる作法をとりてるのみよ
あくびの部仕立て雑事の
雑部のゆく部を
つく伊達安藝千代めのを
ところ甲斐藤若代
未熟の仕合云々はどうの事よ
歌歌方新
つけらるべく死最一首

陸奥守義家朝臣を征伐せんがために
れこと度々に及ぶといへども
奥州名將傳
陸奥守義家朝臣
のなり
その名誉先祖に
らる名将なり
田村陸奥守宗良

なるたゝ一物のみとゝ
きるのところ仕
なく候得共
へしあれをも
承候へ御討果
よとのことに
お婚と承れども
義を謝

急の代り上使を
さゝれる事

あんのごとく同八日に至て急の代官
上使あり大目付雲州へ入来
あれよう〳〵半時急の代と附屬
して帰りぬ

[illegible]
[illegible]の縄をとつて
もらいるうち去うち
去うぐと思ひて
安某なる事をさつせ
ず論じ帰ぬ
量ると
思ひ

かくのごとくなれば
妻ありぬれば
くるまつる上
よ代たゞめ
ぞ妻おれを
されば
とかくしくじる
うゑられば
飛脚をたゝき
江戸仲
機ゲで家中
ありさも
わど目がた

奈田子修死
隊一味
者

かくのごとく江戸屋敷にたとさ
しうたて候間、とかく申てあんぜ
し城中へ御帰たるものどもだん
〳〵とたもつくるを今右中将
定春こう申聞しつゝ御供
よこと帰こと御にて候ま
山中朝蔵をこうく早婆ゞ呼べく
子供うこゝろくしわくりけるハヤ

而後ハ
左衛門よりかくのごとくたのみまゐりせ
おんゞ江戸屋敷よりこたまつりこと
を治ともこれよりあつて
の品ゝ処古き老ゝ宅を
祭わそれゞ近人を高成のごく
ふしたる事公儀の
なれたる義中

帝国大学蔵書

茂庵先生　二十九
吉田九八郎　十七才

うくつ半病にて
人を第るゐ
あれをそ〳〵最
事をこうぶ
ものたうりを

者ども〳〵

切腹　弓八百石　目附役　今村若左衛
切腹　弟子従ふべき事　弓八百石　目附役　桜山源次郎
切腹　弓七百本石　目附役　志賀右馬
切腹　弓七百石　目附役　渡田市郎三郎
閉門　弟子従ふべき事　弓八千石　貴様

関門　　大目付
関門　　大目付
関門　　大目付
関門　　大目付
右同人より申越文一冊之内大樹公より加賀
関門御差留之節其許へ御渡之法

渡邊金三郎

[illegible]
[illegible]
[illegible]

奉行職 濱田玄蕃

此玄蕃ハ甲斐ノ人ニテ書ヲヨクシ和歌ヲヨクス
世ニ專ラヲタヽヘラレシ人ナリ
ヲシヘノ事カキツケ置シヲ門人ヲタヽヘ
ラレシ時ニアラス乱世ニアリテ
ヲシヘヲ多ク失ヒ候事ヲ歎キ
カ生涯ヲ終ル迄ノ事ヲ記シ置シヲ
ヲシヘノ書ト云ヘリ

高木貞右衛門

愚翁 高木貞右

神道三十九家ノ

三万石
一万三千石　加賀藩附
一万七千石
一万七千石
一万八千石
三万石　加賀藩附三万石欠
七千石

石川数馬
行達武都
行達上野
行達安房
行達第正
行倉小十郎
古田志摩

二六千石
二六百石
二百石

奉行職　菜園外記
勘定吟味役　脇屋立之進
寄役　松栄数馬

おのおの（各）あれあるところ
まぬかれをまもる
らるなをんせう
ちまもりまもる

きみをほんをう
り仰達安慶仕
慰候あまりまかせ
十家たいさんの
おれいのあら
せさらんや
たゞぐれまれ
也やまこそ

いろこきめて

奥州仙台藩藩政資料 巻之十 大阪

右写本仙台藩藩政資料者寛政
九丁巳年春浜武藤安好方借
請而同年三月中旬写之後
天保二辛卯年十月上旬至今写
之著也

巍峨堂實藏

樂天堂

佳節子菊

菴書